

2020年度11月28日 臨時理事会議事録

1 日時：2020年11月28日（土）10：00～12：10

2 場所：ウェブ開催のため各自宅・職場

3 参加理事：錠内・野々垣・木村・金山・吉本・佐々木・神保・遠藤・神田・
佐藤範・戸塚・佐藤良・西川・大郷（早退）（14名）

欠席理事：奥原・玖島・野本・澤口（4名）

参加監事：田中（1名）

欠席監事：鶴見（1名）

4 議事録署名人：錠内会長、佐藤範理事、田中監事

5 議決事項（議事の経過概要及び議決結果）

（1）2021年度事業計画・予算案について

会長より、三役会で確認し、大幅な変更はなさそうだという方向性が示される。

続いて財務より、現状の予算について70万ほど増えているが各部・委員会の予算組に大きな変更はなさそうなこと、収入面では新型コロナウイルス感染症の影響で入会数が伸び悩んでいることから会費収入を少なく見積もっていることや研修会収入が増えていることが報告される。収入見込み¥21,794,000。

1) 事務局

予算¥9,250,000（2020年度予算¥9,050,000）

会議費を対面で計上するなど例年通りの予算組をしている。その理由として事業計画外の会議費等が必要な時に対応できるようにしていることを説明。その他の備品等も事務局から捻出するため多めに計上している。

1-1) 質疑応答

佐藤良：新型コロナウイルス感染症の影響や個人情報という重要な情報を管理している事務局専従に特別給付ができないか。

会長：そのときの理事の考え方で左右されてしまうため、今期の理事の意向を確認したい。

田中監事：コロナ支援金を検討してはどうか。

⇒次年度予算には反映しないが情報を集め、今年度中に対応を検討する。

佐々木：クラウドサービスは怎么样了。

⇒現状のサーバーのサービス内容について確認する。

2) 財務部

予算¥481,600 (2020 年度予算¥75,600)

部員の知見を増やすための研修会参加と専門家の支援を例年通り予算組み。専門家の支援については昨年度も検討の上、事務局積立に反映させた。全体的な予算を鑑み、積立に回すか等検討予定。

3) 学術部

予算¥1,645,000 (2020 年度予算¥1,633,000)

スキルアップ研修 9 本→8 本に変更。内 4 本は対面とオンラインを組み合わせる予定。学術誌は投稿数も多いためページ数が増えている。また会員数増を見込んだ予算組になっている。

3-1) 質疑応答

木村：研修会収入が減っていることはどのように分析しているか。

佐々木：従来は半日、1 日の研修だったが、オンライン研修では 90 分が限界と考えているため収入費が減っていること、世の中でもオンライン研修が増えており反応が参加者の反応が鈍くなっていることも鑑みている。

4) 教育部

予算¥3,067,100 (2020 年度予算¥2,531,336)

臨床実習指導者研修会を 3 本→4 本へ増加。会費も資料代¥1,000→¥8,000 へ増額予定。研修会収入が見込めるため講師謝金も上げている。

5) 広報部

予算¥2,681,500 (2020 年度予算¥2,446,500)

ニュース発行は会員 2600 名で検討中。ニュースに関しては今年度同様 3 本ウェブサイト、3 本紙面発行予定だが、現在実施中のアンケート結果を踏まえて紙面本数について検討予定。ウェブサイト配信でも構成等で業者に依頼しているため¥100,000 程度かかっている。対外広報班は今年度は新型コロナウイルス感染症のためほとんど行えていないが、例年通り行えることを前提で予算組している。代替手段も検討中。

6) 福利部

予算¥200,000 (2020 年度予算¥295,500)

例年通りの予算組。吉本理事より入会が増えるきっかけになっている新入会員オリエンテーションの予定について質問あり。佐々木理事よりまだ玖島理事と相談できていないが検討はしていると返答あり。木村副会長より提案あり、新入会の促進についてアイデアを検討することになる。

7) 地域リハビリテーション部

予算¥1,073,000 (2020年度予算¥893,000)

研修会費は¥400,000 となっているが県委託金¥150,000 が含まれている。介護報酬の改定があるためそれに準じた研修内容も検討中。オンラインを想定。関係団体・行政についてもメール等で連絡をとっているが会議に出席することを想定して計上している。

7-1) 質疑応答

金山：研修会費が¥200,000 削減しているのはなぜか。

遠藤：2019年度に実施予定だった研修会を2020年度実施予定としたため、2020年度は研修会自体が増えていたが例年通りに戻したため。

吉本：今年度の県モデル事業を踏まえ委託事業はどうか。

遠藤：県から市町村レベルに移行しそうである。

8) 制度対策部

予算¥308,140 (2020年度予算¥306,080)

例年通りの予算組。

9) 規約委員会

予算¥153,840 (2020年度予算¥183,840)

会議6回のうち半分をオンライン会議にすることで昨年と同様ながら減らすことができた。専門家への相談¥100,000としており、それ以外の出費に関しては理事会審議後事務局積立を検討する。

10) ウェブサイト管理委員会

予算¥56,740 (2020年度予算¥51,740)

県学会がオンライン開催となり、業者が介入するのであればウェブサイト管理委員で行う業務は限られており、予算は¥0で計上している。新コンテンツの運営のため¥5,000増えている。

10-1) 質疑応答

佐々木：もっと効率よくウェブサイトを使用した発信を行うために今行っているSNSツールはどのようになっているか。

佐藤範：ブログ、Twitterがあるが情報が多いので埋もれていく可能性があるため、研修会専用の何かを検討してもよいかもしれない。

11) 学会評議委員会

予算¥101,740 (2020年度予算¥233,840)

予算は昨年度の半分だが、オンライン会議を想定しているため会議費・交通費が減少している。金山事務局長より2020年度中にZOOMを3本(理事会用、理事会以外の会議用、研修用)と増やすことで、ZOOMが使いやすくなる環境を作りたいと意見がある。

1 2) 選挙管理委員会

予算¥206,100 (2020年度予算¥63,400)

2021年度は代議員選挙であり、立候補者が多い場合選挙を郵送で行うことになる。今まで選挙になったことはないが、選挙も想定して計上している。

1 3) 公益法人化対策委員会

予算¥229,400 (2020年度予算¥108,900)

公益事業のパイロット事業として映画上映を検討中。助成金で行う予定である。

吉本理事より予算上は助成金が取れなかったことも想定して通常計上していると補足あり。

1 4) 生活行為向上マネジメント推進委員会

予算¥67,579 (2020年度予算¥306,080)

参加者はすでに取得した層と関心が低い層に二極化し、減少傾向。新入会員向けに年に1度、オンラインで開催予定。ただ、オンラインで7時間程度の研修に参加者が耐えうるかが懸念材料。

1 4-1) 質疑応答

遠藤：臨床実習指導者会議で生活行為向上マネジメントについて講義すると「いつ研修会があるのか」という質問を参加者から出ることがある。臨床実習指導者会議後に研修会を開催してはどうか。

木村：2021年度は難しいが2022年度にむけ情報を集めていく。

1 5) 認知症対策委員会

予算¥325,000 (2020年度予算¥411,000)

研修会はオンライン開催としたことで会場費、謝金が減り、チラシも作らないこととした。録画配信も検討中。家族の会やイベントについては基本対面で計上した。

1 5-1) 質疑応答

木村：研修収入が減少している理由についてどのように分析しているか。

佐藤良：1日の研修から90分の研修に変更したことで生じている。

木村：日本作業療法士協会から伝達講習という形で行われていた研修会の内容はど

のように対応しているのか。

佐藤良：OT協会からのしぼりはなくなった。研修会参加者を増やすため、研修会終了時に今後行われる研修会の広報をするのはどうか。

1 6) 地域包括ケアシステム推進委員会

予算¥134,500 (2020年度予算¥215,500)

2020年度に実施できなかった養成校との連携を図るため情報収集を行っていきたい。

1 6-1) 質疑応答

木村：大幅に予算が減っているが。

西川：オンライン会議の導入により会議費、交通費が減った。

1 7) エリア化推進委員会

予算¥131,100 (2020年度予算¥157,200)

OT コネクトミーティングや代議員の参加を促すエリア化推進ミーティングはオンライン開催を軸に予算組み。

1 7-1) 質疑応答

木村：代議員の交通費はどのようになっているか。

大郷：主体的な参加を促したいが予算状況によっては交通費の支給も検討。

1 8) まとめ

支出合計が¥25,384,339であり、運営準備金の取り崩しは¥3,500,000程度となると吉本理事より報告がある。錠内会長からは、2021年度からの2年間も今までの中・長期計画を継続すること、つまり公益事業を増やしていくことを念頭に次の2年間も検討してほしいと話がある。

(2) その他

錠内会長より、以下の3点について報告がある。

1) 医療専門職連合会について

当理事会でも審議してきたが、11月25日に開催された医療専門職連合会の定例会で会費は出せない旨の要望書を提出したこと、会費を出せないで除名となったと報告がある。活動や会費のあり方について建設的な審議がなされたとのこと。2021年度に関しては除名であるが、今後の審議次第では参加も検討の余地があること、再参加については了承が得られたことが説明される。

2) 訪問リハビリテーションに関する署名活動について

表記について11月30日締め切りで募集しているが、最終締め切りは12月6日であるので、周囲への協力を仰ぐと依頼がある。

3) 理事選挙について

新型コロナウイルス感染症が落ち着いても、理事会はオンラインの併用も可能となることから、従来のように県士会事務所に通える会員だけでなく、オンラインでの参加が可能な会員へとすそ野を広げていきたい。立候補の促しや推薦もお願いしたい。続けて、木村副会長より以下の報告がある。

4) 2019年度事業振り返りについて

12月15日締め切りで2019年度の事業評価の依頼がある。

(3) 監事より

田中監事より、物品の管理の徹底やコロナ禍であるからこそその会員への還元方法についてこれからも検討してほしいと話がある。

6次回予定

(1) 三役会 12月7日(月) 18:30～

(2) 理事会 12月22日(火) 19:00～

以上、文責 金山

議事録署名人	議長：	錠内 広之	印
	理事：	佐藤 範明	印
	監事：	田中 ゆかり	印